



勝海舟 生誕200周年記念

# 海舟の足跡

HISTORIC SITES OF KATSU KAISHU IN HONJYO

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ～本所篇～





明治時代の亀沢町通り



明治時代の横綱河岸



明治時代の両国百本杭



明治時代の本所南割下水



明治時代の二の橋



明治時代の回向院



明治時代の一の橋



明治初年の両国橋

## コラム・本所と海舟

おいら、勝麟太郎、海舟と言えば分かるかな。ようこそ、本所亀沢町へ。おいらが生まれたのはここ。親父の実家、男谷の家だ。

街は賑やかだった。歌舞伎といえは市川團十郎、浮世絵なら広重、歌麿、北斎、近所の回向院では勸進相撲が行われていたっけ。

おいらが七つの頃だったか、親戚のついでで第12代將軍家慶公のお子様、初之丞君の勉強のお相手として大奥へ上がったのさ。親父は「これで息子に出世の機会が訪れた、勝家も浮かばれる」と大層喜んだらしい。さて、大奥のお庭には珍しいものがいっぱいあって大砲に蟹の足跡みたいなものを書いてあって、まあ海外の文字だな、これがおいらの西洋の始まりだ。九つの頃、家に帰らせて頂いた時、手習の帰り道、犬に急所を噛まれた時はいけなかった。親父が必死の看病をしてくれなかったら、今のおいらはなかったかもしれない。やっとこ回復して大奥に戻ってしばらくして、初之丞君が一橋家の跡取りと正式に決まって皆、喜んだよ。親父も「これで麟太郎も家臣として活躍できる」とこれまた喜んだそうさ。ところが初之丞君が病でお亡くなりになってしまった。おいらがお城から下がった時、親父は「青雲を踏み外した」とひどく嘆いたものだったな。

おいらは年上の従兄、男谷精一郎の道場で剣術の修行に専念した。幕府の講武所で剣術の頭取を務め、聖剣と言われる腕だ。流派は直心影流。この道場に中津藩から来た島田虎之助という男がいて、一年で免許皆伝、独立して浅草新堀に道場を構えた。おいらはその内弟子になったんだ。昼の稽古が終わると舟で向島に渡り、牛島神社で素振り、隣の弘福寺で禅の修行を積んだものだ。

免許をいただいて島田先生の代わりに大名屋敷で稽古をつけたりするまでになったんだが、先生が熱心に勧めるので、おいらは剣術はひとまずおいて、西洋の学問の修行に打ち込むことになったのさ。

(ライター、勝海舟の玄孫)

高山みな子

海舟の面影を訪ねる時間旅行へ出かけましょう。

江戸の古地図に照らしながら、

海舟に縁ある人々の痕跡も点在しています。

ジョン万次郎が身を寄せた江川太郎左衛門邸があったりと、

また本所には海舟の盟友である山岡鉄舟の生誕地や、

維新後も本所の地に足を運んだ記録があります。

海舟も相撲観戦に出かけたり、料亭に招かれたりと

ところで、本所といえば江戸の頃より「相撲」と「料亭」が有名です。

江戸城は無血開城に。本所の地も戦火を免れました。

その後、維新が成り、海舟と西郷隆盛らの尽力によって

# 江戸・東京の下町、 本所に生まれた 勝海舟の足跡を訪ねて

勝海舟は文政六年一月三〇日（一八二三年三月十二日）に

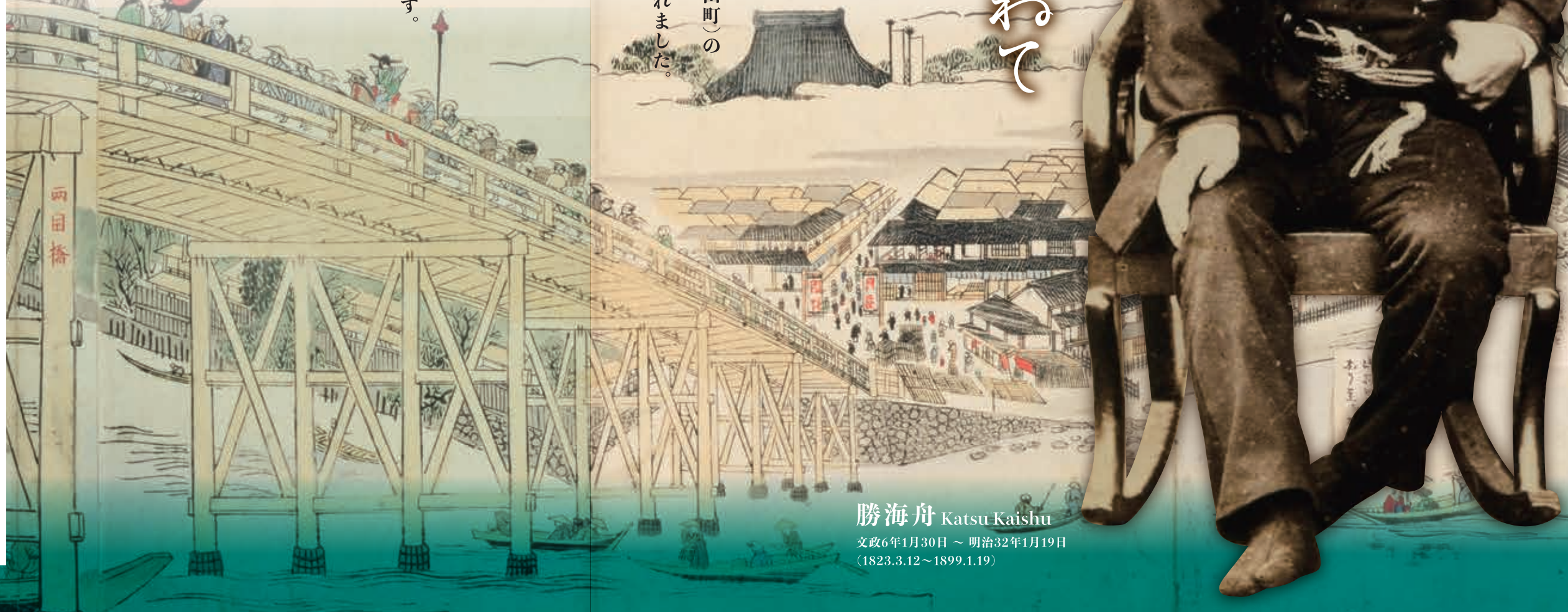
本所亀沢町（現在の両国公園）で生まれました。

勝家は、本所の界限を三度にわたって移転し、

やがて天保十二年（一八四一年）、「天保の改革」における

不良旗本の取締により、海舟の父・小吉も虎ノ門（現在の永田町）の

保科栄次郎方へ押し込みとなったため、一家は本所の地を離れました。



勝海舟 Katsu Kaishū

文政6年1月30日 ~ 明治32年1月19日  
(1823.3.12 ~ 1899.1.19)



### 1 旧両国橋跡

両国1-11

貧しき頃の思い出が残る

両国橋が現在の場所に架け替えられたのは明治三十七年のこと。かつては現在より下流約五十メートルの辺りにあり、当地には説明板が建てられています。この旧両国橋には、貧しき頃の海舟の思い出話があります。ある年のこと、貧しかった勝家では正月の餅も買えず、親戚宅まで無理に出かけたのですがその帰り道、両国橋の上で餅を落としてしまいました。捨いあげても、あまりに悔んで、すべて橋から投げ捨てたと晩年、自身で語っています。




### 3 回向院

両国2-8-10

海舟も相撲観戦に訪れた

両国の回向院といえば、大相撲と縁が深いことでも有名です。現在、境内には歴代相撲年寄を慰霊した「力塚」が建立されています。碑の揮毫は維新後の徳川宗家を継いだ徳川家達(のちの徳川義親)によるものです。家達は海舟の相撲好きでした。海舟も明治時代に回向院へ相撲観戦に行った記録があります。明治十四年一月十七日に旧薩摩藩士・海江田信義と観戦したように、自身の日記に「海江田信義、相撲行く。蛸川、手柄山、高千峰へ酒を遣わず」とあります。蛸川とは、この日引退した境川浪右衛門門下と思われる。関脇の手柄山は四勝三敗二分、高千峰は前頭で五勝三敗でした。海舟が酒を遣わした手柄山の名前は、海舟の日記に幾度か登場しています。巖屋の力士だったのかもしれませんが。





### 4 海舟居住地1 勝海舟生誕の地跡

両国4-25

海舟が生まれた本家・男谷家

海舟の父・小吉は男谷平蔵の三男として生まれました。やがて七歳の頃、旗本・勝家の養子に入りますが、生活は深川の男谷の屋敷で続けていました。小吉が九歳の時、男谷家は本所亀沢町へ移り、小吉も同敷地内に設けられた屋敷で暮らすことになりました。現在の両国公園がその跡地です。その後、十八歳になった小吉は、勝家の娘・信と結婚し、勝家の当主として同地の兄の屋敷敷内に新居を構えました。ところが出奔することもしばしば、ついには男谷の本家より、三畳の座敷牢に閉じ込められました。海舟が生まれたのは、ちょうどこの頃、文政六年のことです。

男谷家の屋敷跡にあたる現在の両国公園内には、海舟が生まれたことを示す「勝海舟生誕の地」碑が建立されているほか、「勝海舟幕末絵巻」と題された解説板などが設置されています。




### 勝海舟と安田善次郎

明治十三年三月、海舟は安田財閥の安田善次郎に招かれ、その屋敷を訪問しています。安田邸は日本橋小網町にありましたが、明治十二年十二月に本所横網の安田家屋敷を購し、各界の名士をここに招いたといわれます。海舟が招かれたのも、この別邸だった可能性がります。

ちょうどこの頃、海舟は日光の社寺の保護を目的に、旧幕臣や地元有志らが組織した団体「保見会」への寄附について、安田と相談していました。「保見会」の発起人の一人に、安田の協力によって第四一国立銀行を開設した鈴木要三がいます。そんな関係から海舟が招かれたのではないのでしょうか。その後、安田は本邸を当地に移しました。屋敷地一帯は安田の没後、東京市に寄贈され、その庭園が旧安田庭園として公開されています。



### 10 妙見山別院

海舟の父・小吉が信心した

妙見山別院にはフロックコート姿の晩年の海舟像が建立されています。これは昭和四十九年、妙見堂開創二百周年の際に、有志によって建立されたものです。海舟の父・小吉は貧乏を脱するため、妙見山別院で百日の水垢離を執行するなど、熱心に当寺を信心していました。




墨田区役所跡には壮年期の海舟像も建てています!

10 妙見山別院

錦糸中学校

### 5 海舟居住地2 天野左京の地所

幕末、軍艦奉行や外国奉行などを歴任した栗本勘雲は維新後、当地に住みジャーナリストとして活躍しました。新政府に仕えることを潔ししなかった勘雲は、政府に出仕した海舟と相容れることはありませんでした。

海舟は晩年、「政治家も理屈ばかり言ふようになつては、いけない。徳川家康公は、理屈はいはなかつたが、それでも三百年続いたヨ。」と語っています。



315 栗本勘雲旧居跡

319 新微組屋敷跡

日進公園

区役所通り

当りあった小笠原加賀守の空屋敷、及び西尾主水郎は、清河八郎率いる浪士組の組屋敷に割り当てられました。後に海舟の妹・順と結婚する村上俊五郎は、浪士組の幹部です。浪士組は清河の暗殺後、新微組として再編成されました。

### 6 海舟居住地3 山口鉄五郎の地所

天野の地所に移った三年後、一家は同じく南割下水の旗本・山口鉄五郎の地所に転居しました。現在の緑三丁目二十二番地、総武線の高架下南側付近がその跡地です。

天保元年〜二年頃、一家は本所入江町の旗本・岡野孫一郎の地所へ移りました。一方、海舟は七歳の頃より將軍家慶の五男・初之丞の学友としてお城に召されていました。そして九歳の年、天保二年に江戸城からの屋敷に戻りました。現在、当地には海舟が住んだことを示す説明板が設けられています。やがて天保十二年、「天保の改革」により、不良旗本の取り締まりが厳しくなると、父・小吉も塾生・謹慎となり、虎の門の保科栄次郎方へ同居押し込められました。かくして一家は、本所の地を後にしたのです。



7 海舟居住地4 岡野孫一郎の地所跡

緑4-35-6

8 勝海舟揺籃の地碑

緑4-11-6

五柱稲荷神社は植村土佐守正朝の屋敷内に祀られたのがはじまりと伝わります。現在、境内には幼少期の海舟が界限で過ごしたことを示す「勝海舟揺籃の地」の木碑が建立されています。

### 8 勝海舟揺籃の地碑

五柱稲荷神社は植村土佐守正朝の屋敷内に祀られたのがはじまりと伝わります。現在、境内には幼少期の海舟が界限で過ごしたことを示す「勝海舟揺籃の地」の木碑が建立されています。

勝海舟揺籃の地碑 五柱稲荷神社

### 9 多羅尾七郎三郎の屋敷跡

立川3-10付近

病犬に襲われ、瀕死となった海舟。勝家が岡野孫一郎の地所に移った頃、江戸城から下がっていた海舟は、多羅尾七郎三郎の屋敷へ本の稽古に通っていました。多羅尾の屋敷は現在の立川三丁目九番地付近にあります。そんなある日のこと、多羅尾の屋敷へ向かっていた海舟は、道で病犬に襲われ、瀕死の状態に陥りました。小吉は必死に看病し、金毘羅に祈願の禊ぎを行いました。その甲斐あって、海舟も七十日には床を離れることが出来ました。



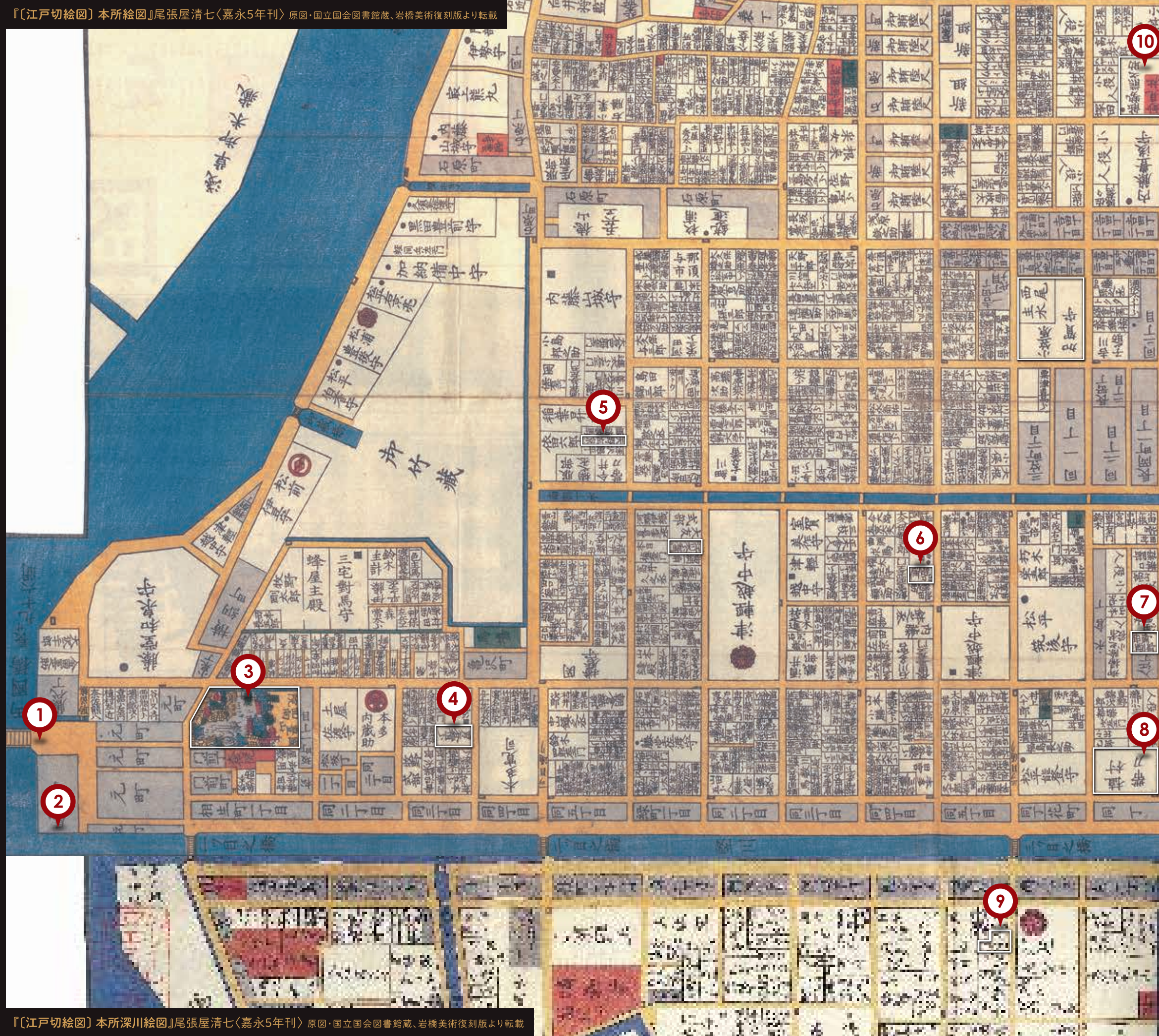
### 2 中村楼跡

両国1付近

榎本武揚に招かれた名料亭

本所区元町二番町、現在の両国一丁目の隅田川沿いにはかつて、中村楼という政財界の要人御用達の料亭がありました。海舟は明治七年三月、榎本武揚より中村楼に招待されています。榎本が特命全權公使としてロシアに発つにあたって、面会したのだと思われます。その他、明治十三年に中村楼で行われた溝口勝助の会合などにも海舟は出席しています。





『江戸切絵図』本所絵図 尾張屋清七(嘉永5年刊) 原図・国立国会図書館蔵、岩橋美術復刻版より転載

『江戸切絵図』本所深川絵図 尾張屋清七(嘉永5年刊) 原図・国立国会図書館蔵、岩橋美術復刻版より転載



## 勝海舟顕彰会

<https://katsu-kaisyu.net/>

会 長 廣田 健史

実行委員長 長谷川 由美

副実行委員長 久力 一雅

役 員 長岡 靖浩 片山 真一

平野 善彦 松田 丈史

佐伯 彰一 猪越 太一

渡邊 秀行 杉山 正純

山口 千鶴子 後原 健

大谷 浩一郎 大塚 武敏

下村 みどり

顧 問 高山 みな子

相談役 板橋 秀幸 中川 圭造

## 東京向島ロータリークラブ

<https://tokyomukoujima-rc.org>

2022-2023年度 会長 小松崎 慎一

2023-2024年度 会長 杉本 浩志

## (公社)東京青年会議所墨田区委員会

<https://tokyo-jc.or.jp/sumida/>

## 本所防犯協会

<http://honjyo-bouhankyokai.jp>

## 日本大学校友会東京都第六支部

## 日本大学校友会墨田桜門会

## 向島消防少年団

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-mukoujima/bfc/index.html>

## (株)環境整備

<https://www.kankyoshibi.com>

## 墨田区観光協会

<https://visit-sumida.jp>

古地図 図版提供 岩橋美術 <http://www.iwabi.jp>



web site!



# 海舟の足跡

[katsukaishu.site](http://katsukaishu.site)



同時配布中!

# 海舟の足跡 隅田川篇

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ



写真出典 【表紙】勝海舟肖像写真(名古屋博物館蔵) 【折込頁】ロッキングチェアに座った勝海舟肖像写真(横浜開港資料館蔵)／『東都隅田川兩岸一覽 東・部分』天明元年・宇鶴岡蘆水(国会図書館蔵)／明治時代の两国橋(『珍しい写真』永見徳太郎編纂・昭和7年)／明治時代の回向院(『東京市史蹟名勝天然記念物写真帖 第(1)輯』東京市公園課・大正11年)／明治時代の一の橋・明治時代の二の橋・明治時代の本所南割下水・明治時代の两国百本杭・明治時代の横綱河岸・明治時代の亀沢町通り(『東京名所圖會』明治41年・東陽堂)【中面】『两国橋秋月(東都名所八景)』芳虎・安政元年(国会図書館蔵)／『大相撲引分之図』蜂須賀国明・明治9年(国会図書館蔵)／『大相撲引分之図』蜂須賀国明・明治9年(国会図書館蔵)／安田善次郎肖像(国会図書館蔵)／山岡鉄舟肖像(国会図書館蔵)／江川太郎左衛門肖像(国会図書館蔵)／勝海舟浮世絵『二勇之義説』松月保誠著画(三澤敏博蔵)

監修・テキスト:三澤敏博(『江戸東京に遺る勝海舟の足跡』、『勝海舟関係写真集』) コラム:高山みな子(『勝海舟関係写真集』)

企画・制作・デザイン サンピースグラフィックス

東京都墨田区錦糸2-8-11 トウダアレイビル2F TEL▷03-5608-1971 FAX▷03-5608-1972

<https://sun-piece.com>

